

ニュース

身近な街の変化をカメラレポート

便利そう！JRと市電の新水前寺乗り換え 新水前寺地区の交通結節点改良工事進む



工事が進むJR豊肥本線「新水前寺駅」。6月19日から新駅の利用を開始した



▲県道熊本高森線を跨ぐ新旧の「水前寺ガード」。旧ガードの位置にJR新水前寺駅とつながる歩道橋が架かり、横断歩道下に移設される市電「水前寺駅通電停」との乗り換えが便利になる



▲「水前寺駅通電停」から見た新水前寺駅地区。同電停を約60m西側に移し「水前寺ガード」に隣接させ、ガード横に新設する歩道橋を歩いてJR新水前寺駅に乗り換えられるようになる



▲新水前寺地区の交通結節点改善事業の完成予想CG（資料提供：熊本大学小林研究室）。CG奥方向が「味噌天神前」方面。左上の支柱構造の建物がJR新水前寺駅



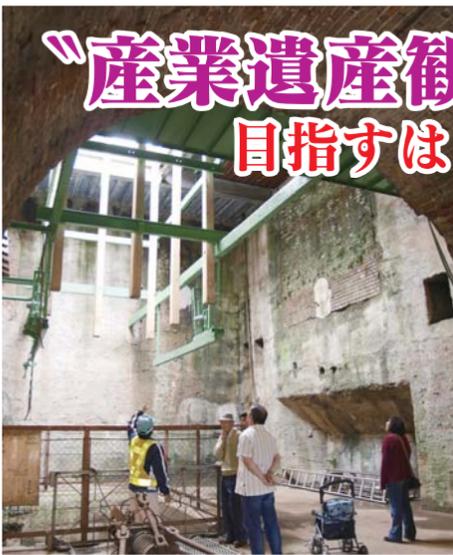
◀6月19日から供用を開始した豊肥本線新水前寺駅の新駅舎

JR豊肥本線「新水前寺駅」と熊本市電「水前寺駅通電停」の乗り換え利便性を大幅に向上させる新水前寺地区の交通結節点改良工事が進んでいる。

県道熊本高森線の自動車交通の阻害要因となっている豊肥本線の架道橋、通称「水前寺ガード」の架け替えに合わせた県道改良工事の一環で、県と熊本市が共同で07年9月に着工した。工事は、現ガード西側にPC製の新たなガードを架設。ガード前後の約220m区間を現在の盛り土から高架橋に改修。これに伴い新水前寺駅舎は支柱構造で2階部分が改札や駅事務室、1階は駐輪場となる。

旧ガード撤去跡には県道を跨ぐ長さ63m、幅3.5mの歩道橋を架設。歩道橋の下に「水前寺駅通電停」を移設し、電停と歩道橋を階段でつないで直接行き来できるようにする。また、歩道橋の両端にはエレベーターも設置。豊肥本線と市電の乗り換え利便性を大幅に向上させる。完成は11年3月の予定。

“産業遺産観光”本格スタート 目指すは「世界文化遺産」



▲「第二竖坑槽」の内部。フェンス内部が竖坑の坑口（現在は埋め戻されている）。炭鉱作業員は昇降用のケージ（エレベーターのかご）に乗り地下264mの坑底に降り石炭採掘に従事した



▲第二竖坑の「巻揚機室」に残る巨大なドラム。巻揚機室にはガイドの案内で見学者もヘルメットをかぶって入る

荒尾市・三池炭鉱旧「万田坑」施設



▲荒尾市が4月25日から一般公開を始めた「万田坑」をガイドの案内で見学者の観光客。後方は炭鉱作業員や資材を坑底に降ろした「第二竖坑槽」（明治41年完成、国指定重要文化財）

荒尾市は、保存整備を進めてきた三池炭鉱旧万田坑の一般公開を開始した。

万田坑は、三池炭鉱の主力坑で、現存する明治・大正期の炭鉱施設としては最大級の施設。当時の優れた採炭技術を伝える産業遺産として平成10年に国指定重要文化財に、同12年には炭鉱施設で初めて国史跡に指定。さらに、九州・山口の6県11市で共同提案した「九州・山口の近代化産業遺産群」が20年にユネスコの「世界文化遺産」の国内暫定一覧表に追加記載された。

年間6千人程度だった見学者は、一般公開後、GW終了までに2万1千人と順調に増加。「万田坑」の取り組みは県下初の本格的な「産業遺産観光」としても注目される。



▲荒尾市が万田坑入口に昨年4月開設したビジターセンター「万田坑ステーション」で、ガイドから模型を使った事前説明を受ける見学者

熊本市内在住もしくは市外在住で熊本市内にご勤務の **宇土高校卒業生の皆様へ!**

7/3 同窓会参加者受付中!!

宇土高等学校同窓会熊本市支部 熊本鶴城会

宇土高等学校同窓会熊本市支部・熊本鶴城会は今年で発足10年目。大先輩から平成の卒業生まで幅広い年代層で、徐々に交流の輪が広がってきています。今年も下記日程で熊本市支部の同窓会を開催しますので、お気軽にご参加下さい。

熊本鶴城会会長 大塚 正法 (昭和41年卒)

参加対象	宇土高校卒業生で熊本市内在住か熊本市内に勤務されている方々
開催日時	平成22年 7月3日(土) 午後6時30分受付 午後7時開会
場 所	熊本全日空ホテルニュースカイ
懇親会費	7,000円 (平成10年卒以降は6,000円)

お問い合わせ・申し込み先 熊本鶴城会事務局長・園田 (昭和51年卒) / 携帯090-9587-2900まで